

子供にさせたい体験

本プログラムのねらい	期待される効果
○体験活動が持つ様々な価値について話し合い、子供の成長にどんな体験が必要かについて考え合うことができる。	○体験活動を単なる遊びとして捉える保護者が、その 教育的意義等について理解し、積極的に取り組むようになる。

活動の主な流れ	運営上の留意点
1 オープニングプログラム「ゲー・チョキ・パーアンケート」等を行った後、3～4人グループをつくる。(15分)	・ワークシートを配布しておく。 ▶▶オープニングプログラム参照
(例) 今回は、子供の成長を育むために必要な体験について、皆さんと考えていきたいと 思います。その前に、ちょっと心と体をリラックスさせましょう。	
2 ワークシート1を記入し、グループ内の意見を聞き、感想などを話し合う。(40分)	・時間に合わせて、事前にワークシートの項目を減らして行ってもよい。
(例) ワークシート1をご覧ください。 (ワークシートを読み上げる) あなたならどんな体験を子供にさせたいですか？ 次の体験の中からベスト3を選び、「あなた」の欄に書き入れてください。	
→ ワークシート1に記入する。(5分)	
(例) ※ほぼ全員が書き終えたことを見届けてから それでは、グループの人の意見を聞いてみましょう。 「あなた」の欄の下に、グループの人の名前と、それぞれが選んだ体験を書きます。	
→ グループの人の意見を聞く。(5分)	
(例) ※各グループでの情報交換が一段落してから 次にみなさんがそれぞれ選んだ理由やその体験のよさなどを話し合ってみましょう。 みなさんの経験談なども交えたとよいですね。	
→ グループごとに話し合う。(30分)	
3 グループごとに発表し、他の家庭でさせている手伝いなどをワークシートに書きとめる。(5分) 4 アドバイス資料等を全体で読み合い、自分で考え自分で行動できるようにするにはどうしたらよいかなどについて、考えたことをワークシート等を書く。(5分)	・状況に応じて、文部科学省の家庭教育手帳 「子どもは遊びが仕事です」「人生で大切なことは、自然の中で学んだ」などを読み合わせる。 ▶▶「エンディングプログラム」参照
(例) 今日の話し合いや資料の中で、印象に残った言葉があれば書きとめ、これからの家庭での体験活動に対する取り組み方について考える材料にしてください。	

